はじめに

「いくつかの句法をお経のように唱えて覚えたケド、それしかわからない」という人、たくさんいると思います。
それどころか、現時点で漢文の知識なんてほぼゼロだ…という人もいることでしょう。
そんな人でも大丈夫！
この講座は基本事項から講義しますので、「今から初めて漢文を勉強する」という人、大歓迎！です。

漢文って確かに一見、漢字だらけで変な記号がくっついていて、意味不明に思うかもしれません。
ですが、漢文は入試科目の中で、おそらく**一番少ない知識で高得点が取れる科目**です！
ただし、古文文法の知識がないと少しやっかいなので（漢文は中国の古典で、その文献が伝わった昔、日本語に訳して読みやすくする訓読方法を確立したから）、まずは古文文法を仕上げてくださいネ。

本講座は**「ベーシックレベル」**ですが、「基本だけやる」という意味ではありません。
基本から説明をして、入試問題を解くために必要な力もつくように構成してあります。

『スタンダードレベル漢文講座』との大きな違いは、
●各チャプター時間が短時間（チャプターの途中で集中力が切れてしまわないように）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●**用例ごとの例文が豊富**〔なるべく有名な文章から取り上げました。学校の授業で見かける文もあるはず〕。
●**句法の学習の後には、教科書でも扱うような有名な文章にも取り組む**〔学校の予復習に最適〕。
●**大事なことは繰り返し説明**〔何度も同じことを聞くことにより、自然と復習していることになる〕。
●**丁寧にじっくり解説**〔わかる人には冗長に感じるかも。ですが、**「じっくり何度も確実に！」**の姿勢で〕。

「漢文なんてとりあえず句法やればいいんでしょ？」なんて思っている人もやっぱりいますよね？
でも、「句法だけひとまず勉強したけど、なかなか問題が解けない…」
そんな悩みを抱えている受験生もたくさんいるのが現実です。

――なぜでしょう？
実は**漢文で大事なことは、句法だけではありません**。
一番基本となる**「文構造」**や**「『置き字』の知っておくべき知識」**を理解できていないと、漢文は正しく読めません。
これらを理解しておくだけで、簡単に解けてしまう問題だってあるくらいです。
なのに「句法」ばかりが重要視され、これらをきちんと理解していないことが原因です。
本講座では、最初に基本知識をきっちり学んだ上で、入試に必要な「重要句法」に取り組みます。
漢詩を扱った後は、文章を読む練習をし、最後に実際の過去問を使用した実践演習にチャレンジ！
基本からしっかり理解して、実践演習で問題が解けるように、最後まで一緒に頑張りましょう！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予復習・授業の受け方について

「実践演習」までは予習不要です。
ノートも不要です。
テキストと筆記用具さえあれば大丈夫です。
テキストへの書き込みで授業をすすめていきます。

テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。
「はじめに」にも記載した通り、各チャプターは比較的短時間ですが、必然的に、講ごとのチャプター数は多いです。
よって、１日で１講を全て仕上げなくても、区切りのよいところで、日にちを分けて受講してもかまいません。
ただし、間が空きすぎると忘れてしまうので、なるべく空かないよう継続して仕上げて下さいネ。

「実践演習」は予習が必要です。
よって、**動画を見る前に先に問題を解いてください**。
予習が終わったら、なるべく時間をあけずに該当箇所の動画を見ましょう。
自分がその解答にした根拠を覚えている間に見ることをオススメします。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。
特に**太字**や**空欄**に**自分で書き込んだところ**に重点を置いて、覚えこむまで何度も復習してください。
復習が終われば、後ろにある**「復習問題」**を解きましょう。
復習問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「復習問題」を解き直しましょう。
記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　基礎知識／書き下し文／返り点 …… p. 6
第二講　基本構造 …… p. 17
第三講　置き字／返読文字／「也」の読み方 …… p. 25
第四講　再読文字 …… p. 34
第五講　使役形 …… p. 43
第六講　否定形⑴ …… p. 53
第七講　否定形⑵ …… p. 62
第八講　否定形⑶／受身形 …… p. 70
第九講　疑問・反語⑴ …… p. 79
第十講　疑問・反語⑵ …… p. 86
第十一講　疑問・反語⑶／詠嘆形 …… p. 93

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　基礎知識／書き下し文／返り点

一　基礎知識

●白文…漢字だけの文

兵少食尽。

有献不死之薬於荊王者。

況賢於隗者、豈遠千里哉。

●送り仮名…漢字の右下にカタカナでつける（漢字の横の平仮名は振り仮名）。

＊日本の古典文法に従い**歴史的仮名遣い**で書く。

兵少ナク食尽ク。

有リ献ズル不死之(の)薬ヲ於荊(けい)王ニ者。

況(いは)ンヤ賢ナル於隗(かい)ヨリ者、豈(あ)ニ遠シトセン千里ヲ哉(や)。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●返り点…漢字の左下につける「日本語の語順で読むため」の記号。

有下献二不死之薬於荊王一者上。

況賢二於隗一者、豈遠二千里一哉。

●訓点…**「送り仮名」**と**「返り点」**のこと。

＊正しくは「句読点」も入りますが、入試においては、まずは「訓点」＝「送り仮名」と「返り点」のことだとおさえておきましょう。

有リ下献ズル二不死之薬ヲ於荊王ニ一者上。

●書き下し文…漢字・仮名まじりの日本文に書き改めたもの。

兵少なく食尽く。

不死の薬を荊王に献ずる者有り。

注　荊…楚（国名）の異名。

況んや隗より賢なる者、豈に千里を遠しとせんや。

注　況んや…まして。

隗…人名。賢者。

豈に〜や…どうして〜か、いや、〜ない。

二　書き下し文

＊平仮名は、日本の古典文法に従い歴史的仮名遣いで書く。

① 返り点（三参照）に従って順番に読む。

② **置き字**（第三講で実施）は**書かない**。

③ 漢字は漢字のままだが、**助詞・助動詞として読む漢字は平仮名**にする。

④ 漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。

⑤ **再読文字**（第四講で実施）は**最初の読みは漢字**で、**二度目の読みは平仮名**で書く。

（例）

有リ下献ズル二不死**之**(の)薬ヲ於荊(けい)王ニ一者上。
→ 不死**の**薬を荊王に献ずる者有り。

況(いは)ンヤ賢ナル二於隗(かい)ヨリ一者、豈(あ)ニ遠シトセン二千里ヲ一**哉**(や)。
→ 況んや隗より賢なる者、豈に千里を遠しとせん**や**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三　返り点　（＊三の例文中も二の例文同様、**助詞・助動詞の漢字**は**太字**、置き字には影をつけています）

①　レ点＝すぐ下の一字からすぐ上の一字に返る。

②　レ　①

（例）

酤（う）ル レ酒ヲ。　〔酒を酤る。〕

空山（くうざん）**不**（ず）レ見レ人ヲ。　〔空山人を見ず。〕

注　空山…人気のないひっそりした山。

食ラフ レ之（これ）ヲ。　〔　　　　〕

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

② 一・二点＝二字以上返る。

③二①②一　／　④レ③二①②一　／　⑤三①④二②③一

（例）

絶(エテ)不(ず)二飲食(セシメ)一。〔絶えて飲食せしめず。〕

我与(ためニ)レ汝(なんぢノ)結(バン)二今身(こんしんノ)縁(ヲ)一。〔我汝の与に今身の縁を結ばん。〕

項王乃(すなはチ)欲(ス)三東(ひがしノカタ)渡(ラント)二烏江(うかうヲ)一。〔項王乃ち東のかた烏江を渡らんと欲す。〕

注　烏江…長江の渡し場。

移(シテ)レ舟(ヲ)泊(ス)二煙渚(えんしょニ)一。〔　　　　　　　　〕

注　煙渚…夕もやにつつまれた岸辺。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③

上・中・下点＝一・二点をはさんで上に返る。

⑤下③二①②一④上　／　⑥レ⑤下③二①②一④上　／　⑦下①⑥中④二②③一⑤上

（例）

有リ下献ズル二不死之(の)薬ヲ於荊王ニ一者上。〔不死の薬を荊王に献ずる者有り。〕

僕時ニ雖(いへど)モ下稍(やや)知リ二愛敬(あいけい)スルヲ一、不(ざ)ルト中従ヒテレ衆ニ非笑セ上、…

〔僕時に稍愛敬するを知り、衆に従ひて非笑せざると雖も、…〕

不(ず)レ聞カ下人ノ従(より)二日辺(ひへん)一来タルヲ上、…〔　　〕

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④ 甲・乙点＝上・中・下点をはさんで上に返る。（甲乙丙丁…）

⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑨丙①⑧乙⑥下④二②③一⑤上⑦甲

○レ○乙○下○二○○一○上○甲。

＊上中下点を使うべき場合も、四ヶ所以上返り点をつけなければならないときは「甲乙丙丁」を使用する。

⑨丁①⑧丙②⑦乙⑤二③④一⑥甲

⑤ 組み合わせ点＝一レ、上レ、甲レのみ。

＊一・上・甲のすぐ上にレ点をつけることはできない。

①⑤二②④レ③　／　⑥下③二①②一⑤上レ④　／　⑧乙⑤下③二①②一④上⑦甲レ⑥

（例）

明ラカニスル二人之(の)欺クヲレ王ヲなり也。〔人の王を欺くを明らかにするなり。〕

土佐ハ無シ二物トシテ不ざルレ有ラ。〔　　〕

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥　二字の熟語へ返る＝ー（ハイフン）でつなげる。

③二-④①②一　／　⑤三③二-④①②一

（例）

往二-来ス於市井ノ間ニ一。〔市井の間に往来す。〕

師二-事ス之レニ一。〔　　　　　〕

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　次の○の中に、返り点にしたがって、読む順番を数字で書きなさい。

○二-○○一○○レ○。

問二　次の数字の順番に読めるように返り点を付けなさい。

⑦⑥①②⑤③④。

問三　次の文は「単于之を降さんと欲す」と読む。この読み方に従って、返り点を付けなさい。

（単于(ぜんう)之(これ)を降(くだ)さんと欲(ほっ)す）

単于欲降之。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講

① 「書き下し文」にするときのルールとして正しくないものを、次の中から一つ選べ。

ア　平仮名は、日本の古典文法に従い、歴史的仮名遣いで書く。
イ　返り点に従って順番に読む。
ウ　置き字は書かない。
エ　送り仮名はカタカナで書く。
オ　助詞・助動詞として読む漢字は平仮名にする。

② 「○下○○中○○二○○一○上○。」を読む順番として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　①下⑨②中⑧⑤二③④一⑥上⑦
イ　⑤下①④中②⑧二⑥⑦一③上⑨
ウ　⑧下①⑦中②⑤二③④一⑥上⑨
エ　⑥下①⑤中②⑨二⑦⑧一④上③
オ　⑥下⑦⑤中⑧③二①②一④上⑨

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「臣聞邪不干正」を、「臣　邪は正を干（をか）さずと聞く」と読むには、どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　臣　聞㆓　邪　不㆒　干㆑　正

イ　臣　聞㆑　邪㆑　不㆑　干㆑　正

ウ　臣　聞㆔　邪　不㆓　干　正㆒

エ　臣　聞㆓　邪　不㆒㆑　干㆑　正

オ　臣　聞㆓　邪　不㆑　干　正㆒

④「太常使国工視之」は、「太常　国工をして之を視（み）しむ」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ（なお、「使」は助動詞で「しむ」である）。

ア　太　常　使㆓　国　工㆒　視㆑　之

イ　太　常　使㆔　国　工㆓　視㆒㆑　之

ウ　太　常　使㆔　国　工㆓　視　之㆒

エ　太　常　使㆓　国　工　視㆒㆑　之

オ　太　常　使㆓　国　工　視㆑　之㆒

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第一講】

三

①〔之を食らふ。〕
②〔舟を移して煙渚に泊す。〕
③〔人の日辺より来たるを聞かず、…〕
④⑧レ⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲。
⑤〔土佐は物として有らざる無し。〕
⑥〔之に師事す。〕

〔模範解答〕

問一　②二‐③①一④⑥レ⑤。
問二　⑦レ⑥三①②⑤二③④一。
問三　単于欲レ降レ之。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　解答解説

〔解説〕

① 書き下し文にする際、漢字の右下にカタカナで書かれている送り仮名は、平仮名で書く。よって、エが正解。

② 上から見ていき、返り点がついていない文字から順番に読む。従って、最初の○には「下」点がついているため保留。少なくとも、先に一・二点を読んでからでなければ読めない。二番目の○には返り点がついていないので、これを1番に読むことから、選択肢ア・オは削る。三番目は「中」点であるから、こちらも保留。四番目は返り点がついていないので、これを2番に読む。五番目の○に「二」点がついている。よって、「一」点がついている文字からここに戻る。その下の○には返り点がついていないので、これが3番。この時点で、正解はウだとわかる。一応、確認していくと、その次に「一」点がついており、ここから「二」点に戻る読み方になっている。その次の○に「上」点がついているので、そこから「中」↓「下」と読み、最後の○が9番となる。やはり、ウが正解。

③ 「邪 不 干 正」の部分を「邪は正を干（をか）さず」と読むには、「邪」には返り点は不要。「不 干 正」の部分は、それぞれ一字ずつ返っているので「不レ干レ正」となる。「～ずと聞く」の部分は、「不」の文字から「聞」に二字以上返っているので、「不」はレ点、「聞」には二点がつく。よって、エが正解。

④ 「太 常 使 国 工 視 之」を「太常国工をして之を視（み）しむ」と読むには、「太常」の文字には返り点は不要。「使」は助動詞で「しむ」と最後に読んでいるため、「使」の文字には返り点がつくが、選択肢すべてに返り点がついているため保留。次に「国工をして之を」と読むので、「国工」の文字には返り点は不要。したがって、エかオに絞る。次に「之を視」と一字返って読むので、「視レ之」となる。最後の「視しむ」の部分は、「視」の文字から「使」に二字以上返っているので、「視」はレ点、「使」には二点がつく。よって、エが正解。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔解答〕

① エ

② ウ

③ エ

④ エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。